

第1回学校説明会

卒業生や在校生も説明に参加

中学校の夏休みも終わり近くの8月29日(土)午後、第1回学校説明会を開催した。全国から保護者を含め14組32名の参加があり、来年度の受験生が中心であった。

後藤校長の挨拶、岩佐広報課長の説

明に続いて、卒業生として、現在医科大学3年生の宇野香美さんが説明に加わってくれた。本校で学んだ3年間を振り返り、受験した時の思い、入学した時の不安と友だちとの出会い、学校生活で得た自律・自立心、学習習慣と

大学に進学した時の経験など心をこめて語りかけ、話し終わると参加者から盛大な拍手が起こった。寮案内や質問ブースも2、3年生の在校生が行い、多くの質問を受けた。保護者の方から、「しっかりしておられますね」という

お褒めの言葉もあった。

第2回は、10月18日(日)の午前、第3回は11月21日(土)の午後に予定しており、参加者の増加を期待している。



体験談を話す医大3年生 宇野香美さん



生徒による男子寮の説明

国際理解講演会

AMDA の活動から「救える命があればどこへでも」

AMDA 緊急救援医療事業シニアアドバイザー 津曲兼司 先生

9月10日(木)の6・7時限、AMDAの緊急救援医療事業シニアアドバイザーである津曲兼司先生を招き、今年度の国際理解講演会を開催した。

まず、文科系の学生だった先生が医学部へと転進した動機、それに繋がるアフリカ・ケニアでの体験や新たな価値観の構築について話された。さらに、目標を達成するためのユニークな発想と努力や工夫についても言及された。将来の医師を目指す本校の生徒にとっても参考になる点が多々あったと思う。

次に、AMDA チームの中心的な医師として、ソマリアやバングラデシュなどの難民や被害者の救援活動に当たった時の様子、阪神・淡路大震災では真っ先に現地に入られた医師団として

の苦労やとっさの機転の必要性、さらに今年4月に起きたイタリア大地震の被災地での救援活動の様子など、平時の医療活動とは全く異なった状況での緊急救援医療の実態を、現地での写真を交えながら情熱的に話された。本校の将来の医師たちも惹きつけられるように聞き入っていた。

先生の話の中で特に印象に残ったのは、難民救援活動や緊急医療活動においては、いかにすばやく的確な状況判断をくだすかということ、また時には冷酷とも思える処置を最小の被害を念頭に置いて行わねばならないということ、そして救援活動やボランティア活動は最終的には現地の人たちの自立

に繋がるものでなければならないということだった。

(秋山 怜)

(追記)

津曲先生はスマトラ地震の被災者支援のため、AMDA より急遽現地に派遣され、10月2日から現地での医療拠点の整備、情報活動を始めた。

